2023年度 第２回 愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

日時：2023年７月28日（金）
10時00分から12時00分まで
場所：愛知県庁本庁舎２階　講堂

＜局長挨拶＞

皆さんこんにちは。愛知県政策企画局長の沼澤でございます。

本日は、座長の後藤先生をはじめ委員の皆様方には、大変お忙しい中、「2023年度第２回愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」にご出席いただき、ありがとうございます。

また、日頃から、愛知県政の推進にご意見・ご助言をいただいておりますことを、この場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、愛知県の人口は、2021年10月～2022年９月の１年間に、名古屋市・中核市を含む43市町村で減少するなど、人口問題は、県全体に関わる重要な課題となっていることから、10月を目途に策定する総合戦略を本県の「人口問題対策プラン」として位置づけ、人口減少にできる限り歯止めをかけるとともに、人口減少下でも県内各地域が活力を維持し、すべての人が活躍でき、安心・快適に暮らせる社会の構築を目指してまいります。

４月に開催しました今年度第１回推進会議では、委員の皆様方から、本県の人口動向や新たな総合戦略の構成イメージなどに対して、ご意見・ご助言をいただいたところです。

その後、５月から６月にかけて、市町村連絡会議を、県内を６ブロックに分けて開催し、地域ごとの人口動向や課題などについて、市町村と情報の共有を図ってきたところであります。

これらを踏まえ、庁内で検討を進め、新たな総合戦略の骨子を作成しましたので、本日の推進会議では、骨子について、委員の皆様方から、各分野において培われた、知見やご経験をもとに、ご助言やご提案をいただければ幸いでございます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

＜後藤澄江座長＞

後藤でございます。この会議の座長を務めさせていただいております。どうぞよろしくお願いします。人事異動により、愛知県農業協同組合中央会営農・くらし支援部長の伴委員にご参加いただいております。伴委員から一言ご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

［新任委員自己紹介］

ありがとうございました。それでは、これより議事に入りたいと思います。本日の議題は、新たな「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の骨子等について、でございます。

まずは、事務局から説明をお願いします。

［事務局から資料説明］

＜後藤澄江座長＞

ありがとうございました。

事務局から、重要業績評価指標（ＫＰＩ）の達成状況、新たな「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の骨子等について、ご説明をいただきました。

愛知の地方創生の実現に向けた今後の対応へのご意見はもちろん、新たな総合戦略を策定していくうえでの課題や視点、政策提案といったことも含めまして、皆様にご意見を伺ってまいりたいと思います。

＜内田俊宏委員＞

中京大学の内田です。

それでは、骨子と素案たたき台を中心に視点をお話ししたいと思います。

まず、骨子ですけれども、先ほど事務局から説明があったように、人口増減に関しては、どの都道府県も厳しい状況になっていますけれども、そのうち、自然増に関して、日本全体の人口動向の最大の課題でもありもちろん重要だと思いますが、一方で、本県にとっては地域ごとの人口吸引という視点で、むしろ社会増減の方が極めて重要であると考えております。

現状、東京圏の一都三県もしくは東京都の一人勝ちという状況ですけれども、これまで本県が比較的優位な状況であった社会増減をより重視していく施策が重要になると思います。

そういう観点から、骨子３ページの基本的な考え方のところにある、若者の東京圏への流出抑制、またＵＩＪターンなどで還流する取組は非常に重要で、とりわけＩＴ人材やＤＸ人材は若者が中心になってきますので、この辺りの世代を重点的に見ていく必要があると思います。

あわせて、４ページ目の基本目標のところで、順番として時系列に近い順番になっておりますが、やはり、基本目標②「人の流れづくり」の中でも、いわゆるＵＩＪターン希望者とのマッチングや、基本目標③「しごとづくり」のイノベー

ションによる仕事の創出、更には基本目標④「魅力づくり」、この辺りの項目の重要性が高いと考えています。

社会増減に関しては、総務省の人口動態調査統計でも、東京や首都圏は0.2～0.3%台で、次いで福岡県が0.18%だったと思いますが、なぜ人々は東京に行くのか、なぜ福岡に勢いがあるのかという点を考えると、やはり若者にとっては、刺激的でオシャレな街、チャンスのある街に一度は行ってみたいという思いがあると思います。スタートアップの拠点を形成する福岡で起業したいとか、若者に魅力のあるまちづくりとそうしたブランドイメージの発信が重要になってくると思います。愛知県としてはそうした部分で弱いという認識の下、ソフト・ハード両面での環境整備に加えて、若者に対して積極的に情報を発信する取組が重要であると思います。

次に、素案たたき台ですが、農林水産業や観光もそうですが、若者にとって就職を希望する業種であったり職種を拡充していく必要があるとともに、主力の製造業はもちろん重要ですが、製造業もサービス産業へのシフトをもっと前面に出していく必要性を感じています。また、出荷額の多い農業分野でもスマート農業や、アグリツーリズムのような若者に人気が出る方向性を目指し、結果的に、付加価値を高めて所得水準を引き上げていく取組が、今後重要になってくると考えています。

＜浦田真由委員＞

名古屋大学の浦田です。

私の方から、まず、骨子の方で見たときに思ったこととして、３ページのところ、重視すべき視点ということで視点が４つありまして、そのあと２つの方針があり、更に目標が７つということで、その辺りの関係がもう少しすっきりできないかなという印象を受けました。

４つの視点については、どうしても分野横断的な部分なので仕方ないかと思いますが、例えば、２つの方針については、考えれば考えるほど、同じようなことを言っているような気もしてきまして、素案たたき台の方も、11 ページのところに対応表が載っていて、２つの方針のところに、基本目標①、②が上にあって③、④、⑤、⑥、⑦という形で書いていただいているのですが、歯止めをかける部分についても、地域の魅力づくりとか、安心を支える環境とかも大事だなと思ったり、活気、活力ある地域というところも関係あると思ったり、２つの左側の分け方の意味がどこまで必要なのかと感じました。別に、すべての人が活躍でき安心・快適にというところを強調できれば、すべて共通する項目かと感じたところがあります。

デジタルでいきますと、観光ＤＸを入れていただいたり、基本目標⑦という形

で目標に入れていただいたりしたのは良いと思いますが、どうしても基本目標⑦を付け足した感じが強く、素案たたき台で基本目標⑦の項目内に書かれているのが、割と再掲という形で、前に出てきたものをまとめたという感じを受けるので、もう少しその辺りも全体を見たときのまとめ方として工夫できた方がよかったのかと思っております。

ＩＣＴという言葉とデジタルという言葉は、私もどっちを使ったらいいか迷うところがありますが、今まで割とＩＣＴとしていたところが、最近デジタルに置き換わってきていて、国の方のデジタル田園都市国家構想総合戦略の方も、全体的にデジタルという言葉が多く使われています。今回、この愛知県の今の素案たたき台の方を見ると、基本目標⑦のところにだけデジタルがあって、それ以外はＩＣＴになっていたりするので、その辺の用語の使い分けを改めて検討されてはどうかという印象を受けました。

あと、骨子の５ページ目、基本目標⑥の最後のところに、「県全体でのデジタル・ガバメントの実現を目指し、市町村のデジタル化を支援」という項目を挙げていただいているのですけども、この言葉だけを聞くと、やはり基本目標⑦の方が強いような気がしていて、県全体のデジタル化の推進の方向と思ってしまいますので、その辺りを再度整理できるといいかと思いました。

＜鬼木利瑛委員＞

eight の鬼木と申します。

私からは、骨子の中にもあります女性の活躍や、女性が育児や介護の両立を通して働きやすい環境づくりみたいなところに対して、意見や発言、提案をさせていただければと思っております。

女性が東京へ行ったきり戻ってこないという課題がある中で、先日、大手の自動車メーカーに新卒入社して、出産前、キャリアの限界を感じて退職した女性が、起業を視野に入れて、私の会社で副業してくださっているのですけども、地域の公的な支援機関等に赤ちゃんを抱っこしながら相談に行って、その時に、「奥さん、奥さん」と、呼ばれて、名前で呼ばれなかったことや、「奥さん、旦那さんは何をやっているの？」と言って、自分自身の事業よりも、配偶者の職業を指摘されたことに、もともとバリキャリの方なので、ショックを受けていらっしゃりました。後日、支援機関さんにお伝えしたのですけれども、私もこの地域で起業支援を１年くらいさせていただいている中で、働き掛けをしてきたつもりだったのですけども、ショックを受けた出来事でした。

この件は小さなことと思われるのですけれども、未だに奥さんとか嫁とか母親という、誰かの補助のような立ち位置として認識されてしまっている現状は、企業も含めて自分自身の人生を主体的に切り開きたいと考えている女性にとっ

ては、大きな壁になると思っております。

一方で、良い兆しもあるなと思っていまして、地域の製造業さんを中心に、私自身、育児と両立しながら仕事をしている社員へのキャリアデザイン研修などを実施しているのですけれども、確実に４、５年前と比べて、管理職に昇進昇格する女性、活躍する女性が増えていると感じています。育児との両立時期があったので、男性と比べて、昇進のスピードはかなり落ちてしまうのですけれども、実際に昇進して管理職になっていくと、若手の育成や良いチームづくりというところに、すごく壁を感じつつ、やりがいを感じている様子も見ていまして、こうした上司の存在というのは、若手社員にとっても話し掛けやすいとか心理的安全性が高いので、この職場の定着や活躍に絶対に繋がりやすいと思っております。

そういった意味で、今後本当により一層、意思決定の場に女性を含めて多様な方々が入ってくる、そういったことの支援とか、リーダー同士の横の繋がりということが、どんどん強化されていくと良いのではないかと思っています。

それから、先日、大学４年生の女性から、女性起業家の支援の実態について研究しているので、インタビューをということで、受けたのですけども、色々と逆に聞いている中で、就職が既に決まっていて、ただ、親から愛知は出ないでほしいと言われて、素直に愛知を出ずに就職を決めましたとおっしゃっていました。その一方で、数日後に、東京で活躍されている若い女性社員の方から、インタビューを受けたことがあったのですけども、その方は逆に親から、近くに就職してほしいと言われて反発して飛び出して、東京で活躍しているのですが、その方に聞いてみたら、愛知を出ないでほしいと言われて、素直に親が望むレールを歩んでいる人が多い地域に戻るのは、私自身、居心地の悪さを感じるだろうから、戻るというのは考えられません、という話をされていました。

最後に、休み方改革などが、男性の育児や育児休業の促進にも繋がって、それが子育てとか、子どもを産みたいということにも繋がるのだろうという話ですけども、豊田市の山村地域に、若くして、大学を卒業してすぐに移住したご夫婦がおりまして、子どももそんなに産むつもりではなかったと言いながら、４人のお子様を産んだ方がおります。２人とも名古屋大学を卒業されている方ですけども、そういう方々と話していて印象的だったのが、この場所にいると、自然などに触れて、心に、気持ちに余裕があると、身体自身が子どもを欲しがる感覚があるということを言っていました。そういう意味では、自然に身を置くということも、もちろんそうなのですけども、愛知県は工業と山村地域と非常にバランスはいいと思っているのですが、工業の発達の中で、なかなか余裕がなくて、ぼうっとする時間もないというのは、身体が子どもを欲しいとか、子どもを育てたいという気持ちになりにくい環境もあったかと思います。これが、休みが多くなっ

たり、男性の育児参画が増えていくと、女性が、本来、根本的なところで、もちろん産めないとか、産みたくないという意識というのはあるのですけれども、産みたいと思える、そういった余裕みたいなものが、もっと促進されていくと、育てたいという気持ちになっていくのではないかと思いました。

色々な観点でお話しさせていただいたのですけれども、より一層、愛知県の女性の活躍とか、働くというところと育児、介護、様々な生活との両立を、バランスよく進めていけるような施策というのを期待していきたいと思っております。

＜白上昌子委員＞

私からは主に２点お伝えしたいと思います。

まず１点目は、前回の会議で、特に外国人の流入のところを加味してくださり、ありがとうございます。社会増を支えているのは外国の方々です。この現実を踏まえ、彼らを地域社会の中でどう迎えていくか。社会統合は、とても難しい問題です。特に学校教育の分野は、親御さんも含め日本の地域社会に一番触れていくところです。これを早期の段階から支援していく必要があることを含めて、この中に盛り込んでいただき、ありがとうございます。

２点目は、県の現状として 20 代前半の女性たちの多くが、東京に流出しているということについて述べさせて頂きたいと思います。私が調べたところ、2019 年、グローバル都市不動産研究所というところが、上京する 20 代の若者を対象にその理由についてアンケート調査を行っています。

その調査によりますと、地方都市から近隣の政令指定都市に移り、そこを経由して、政令指定都市から東京に流出しているとのことです。また、2009 年からは男女の数の逆転現象が起きているということです。では、2009 年はどういう時期だったかと思い返してみますと、ちょうどスマートフォンが普及した時代です。上京した理由をみますと、男性と比べて、女性の方が、東京で暮らしたい、親元、地元を離れたかったからという理由が多く、男女とも半数以上が将来地元に戻るつもりがないとなっています。

つまり、地元で働きたいけれども、働く仕事がないとかそういった問題だけではなく、ライフスタイルが影響していると読み取ることもできます。私が 20 代の頃は、インターネットはありましたけれども、テレビや雑誌といったメディアを通して東京の情報を得ていました。でも、彼女たちは今スマホの中で、随時東京発の自分好みの情報がどんどん流れてくる。そういった中で、では愛知県から東京に行く女性たちはどんな理由で東京に転出しているのか。この理由を丁寧に見ていく必要があるかなと思います。

先ほど内田委員がお話しされたように、東京への憧れやイメージというのもあるかと思います。何もないから東京に行きたいというのではなくて、ある程度

都市の生活を送っている人たちが、むしろどんどん東京に行っているという現状をどう捉えていくか。例えばジブリパークであるとか、或いはSTATION Aiとか、そういったコンテンツや取組を上手く活用して、豊かな自然が身近にありながら、都市の生活を楽しめるとか、若者のチャレンジに手厚いまちとか、今までになかった新しいライフスタイルみたいなところを県として打ち出したり、ロールモデルみたいな存在を印象づけたりしていくなど、ハード面だけでなく、ソフト面も合わせたブランディングやＰＲも重要ではないかと感じました。どんなライフスタイルが送れるまちなのか。単純に出て行ってしまうのをどう抑制するかという話でもないと感じました。

＜戸田敏行委員＞

愛知大学戸田です。

事前に配っていただいたので、資料にざっと目を通させていただきました。全体的に良くまとまっているという感じを持ちます。愛知県としての戦略のメリハリみたいなことをどうしていくかということでは、若干気になるというところですので、基本的な考えと、目標施策、それから地域編ということで手短に意見を申し上げたいと思います。

まず、基本的な考え方では、ポイントが２点挙げられていました。これはそのとおりだなという感じがします。

１点目の安心をどうするのかというところについて、若干気になり、特に高齢世帯、高齢層が安心できないと、なかなか若年層も続いていかないのではないかという感じがしています。

もう１つ、２点目の東京圏、これをどう見るかということですが、地方創生の最初の時に、東京圏、特に東京は合計特殊出生率が極めて低い、令和４年でみても1.04ということで、東京化を進めていくと日本の人口は、結局なくなっていくというのが１つ大きな認識でした。首都圏・中部圏・近畿圏を一体とするスーパーメガリージョンがありますが、この大都市圏が広がっていく中で、愛知県は合計特殊出生率が高くて、人口維持につながりやすい。愛知県の人口という視点と同時に、日本全体にとって愛知県の在り様というのは重要であるという、日本のためであるという認識も、若干書き加えられていいのではないかという感じがします。

次に、基本目標について３点あります。１点目は、人の流れづくりということで、これも、今まで各委員もおっしゃっていましたが、若者をどういうふうに見ていくかということで、今が若者の減少のボトムだったらいいのですが、もっと減少していく予測で、認識を基本的に転換していくという前提に立っていくことが大事です。そのためには、若い人たちと、インタラクティブにこういう戦略

を作るというか、考え続けていくような、そういう仕組みが必要ではないかと思います。共感の形成といいますか。私も講義で、どこの住み続けたいのか、働きたいかとか聞くのですけども、大体学生の答えは、このエリアに住んで１つの企業で働きたいということを言います。時代的には、特に働き方では、１つの企業で働き続けることは多分もうないのだろうとは思うのですけれども。彼らの頭の中で、将来を実感として持っていくような機会が必要で、先ほどライフスタイルの話もありました。主体的な人生設計としてのライフシフトが以前流行りましたが、どうも具体化しているというふうには思えません。コロナの変化としてのテレワークも外的には元に戻ってきたのだけど、その中で主体的な人生選択としてライフシフトというのはどうなってきたのか。企業も働き方を考えてきたのかという点については、どうもまだ足りないという感じがします。そういう意味で、インタラクティブにできる講義が幅広く設定され、学生と共に取り組んでいったらいいのではないかと思います。愛知というのは、大学が集約しています。近辺から進学しているという点から考えても、愛知らしい１つの戦略じゃないかと思います。

２つ目がしごとづくりで、外国人戦略というのがもっと強く出ていいのではないかという感じがします。定住ということもありますけども、近年着目されているのは、外国人の関係人口。どうその構造を作っていくのかというところが、１つ戦略性じゃないかと思います。最近話題に上がるのが、デジタルノマドということです。これは海外の方がデジタルの仕事を持っていって、そして国内に移動して仕事をしていくということです。これに対して、デジタルノマドビザを出している国があります。まだ我が国では実現していませんが、そういう人材を取り込んでいくという戦略があってもいいのではないかなという感じがします。例えば、愛知版デジタルノマドビザとか。ビザだから国がやることですけど、さっき言ったように、大都市圏とか日本全体の中で、愛知のやることはトリガーで、全国的な意味を持つということであれば、そういうことを主張していくのが１つのやり方ではないかと思います。そういう人材が入ってくれば、外国人に対する寛容性も随分変わってくるのではないかなと思います。滞在できる期間を限定、仕事の仕方も限定、納税をどうするかとか課題は色々ありますけれども、トライしても面白いという気がします。

それで、３つ目が高齢社会の捉え方です。私も年齢上、高齢に類されるように、２年ほど前になって、ちょっとリアルです。人数が極めて多いということで、マーケットがあって、政府の資金もある構造になっていると思います。そこに対して、もうちょっと攻めがあってもいいのではないかなという感じがします。例えば、基本目標⑦でスマホ講座のサポート派遣ということで、これはとても大事ですけども、合わせて他の項目で、例えば介護ロボットのことが出ています。この

ロボットや最近だと生成型のAIをどういうふうに高齢の生活に対応できるかを、１つにまとめて打ち出していくというのも、戦略じゃないかなと思うのです。割と切迫した課題です。

最後は地域別編で、これについては主として東三河で、先ほど元気な過疎ということで、デジタルを入れていただいたということで、デジ活はありがたいと思います。中山間地にとって、この基盤ができるかどうかというのは、各地の生命線だと思います。基盤があれば、先ほどデジタルノマドじゃないですけれども、そういう指向性のある人材を地域に入れることもできるけれども、基盤がなければだめだというふうに思いますので、生命線という感じがします。

それから、素案を拝見しました。東三河のところで、県の役割ということで書いていますが、東三河県庁という総合出先機関で、かつ副知事を置いているという、日本でもまれな戦略をとっていると思います。そこで、東三河から三遠南信県境地域に対してウィング伸ばしているというのも事実です。県境を越える役割はやっぱり強調していくことが必要じゃないかと思います。

もう１点だけ、地域のとらえ方で、リニアについて何カ所か書かれています。リニアができれば新幹線の本数が変わるということは、１月に伊勢での岸田首相から発言で、この夏にその本数を出すと言われていることです。愛知の基盤を作る上でとても重要で、東海道の線とリニアの線がクロスしているのは、愛知、特に名古屋です。そういったところを強調していくとメリハリがつくのではないかなと思いました。

＜松田茂樹委員＞

中京大の松田です。私の方から発言をさせていただきます。

まずこの素案、愛知県が更に発展していくために本当に総合的な取組が書かれていると思います。その上で、私から手短に５点申し上げます。

１点目ですけども、資料１のＫＰＩです。コロナ禍の影響がかなり出たということで、少子化関係の指標は特に厳しいものになったと。これはコロナ禍、また行動制限は、結婚・出産・子育てに大きな副作用をもたらしたのだと思います。残念ながら、この期間に家族形成のタイミングを失った方は、なかなか取り返しづらいところもあるかもしれません。ですから、できるだけ今後、少子化対策や、様々な対策を充実することによって支えてあげることが必要だと思います。

２点目ですけども、その結婚・出産・子育て、資料２の基本目標①です。非常に充実したものだと思います。今、岸田政権は、少子化対策を従来と少し変えてきているのです。それは従来保育やワーク・ライフ・バランスなどが中心だったものを、できるだけ幅広い人を支えるようにしていく、更に経済的な支援も含めてやっていくという方向にあります。愛知県も、すべてそのとおりにする必要は

ないかもしれませんけれども、それを見ながら、対応を拡充することが大事だと思います。

これに関しまして、結婚支援のところが書かれていましたので、少し反応しますと、県として、愛知県としては結婚支援を拡充するときに、そろそろ来ているのかもしれないというのが、私の意見です。書かれていることを見ますと、結婚のイベントをやるというのが書かれているのですけども、全国の他の自治体様の中にはイベントするだけではなく、しっかり結婚を希望される方の相談に乗ったり、もちろん仕事面も含めて、また支援して、そういったものもやってらっしゃるところがあります。そういうところも少し視野に入れることが望ましいのではないかと思います。ちなみに政府の交付金もありますので、活用することは可能だと思います。

３点目ですけれども、先ほど来から前回の議論にもなりましたが、東京圏への若者の流出の問題です。これは事務局様からも事前説明を伺ったとき、言われたのですけれども、前回私が申し上げたとおり、女性の方がたくさん出ているわけではなくて、男女とも出ているのですけれども、男性の方は東京圏等から帰ってきている人が多いので、それが相殺すると、女性の方が出ているように見えるという話でした。そのことが分かるように、この資料 2-2 で、本文の方には記述しておいた方がいいかもしれません。それによって対応が違います。

何が違うかというと、先ほど鬼木委員がご発言されたと思うのですけれども、愛知県にはない産業もあります。例えば、金融産業ですとか、それからマスコミ系ですとか、或いはサービス業のうち愛知にはないところで活躍したい女性が出て行って、愛知県に戻らないというのは当然だと思います。その代わり、製造業が中心の県ですから、そこを希望される東京圏から来ていただけるような人にアピールするというのが大事じゃないかと思います。

その時に、先ほど私の申し上げたことと関連するのですが、男性の方は東京から、ある程度、若者が帰ってきていると言いましたが、それはおそらく愛知県出身の人だけではないのではないでしょうか。例えば自動車が好きなので、東京出身でしたけど愛知に就職しますということがあります。つまり、東京圏で生まれ育った方や、他地域で生まれ育った女性の方にも愛知の魅力を伝えて就業の場として選んでいただく、そのような形で、転出を抑制していくというような方向性もあるのではないかと思います。

最後ですけど、地域別の取組が書かれているということは大事だと思います。この総合戦略によりまして、各市町村の自主的な取組が、更に進むということが大事だと思います。たまたま先週県議会の方でお話しさせていただいたときに伺ったのですけども、愛知県の市町村様というものは、結構積極的に子育て支援をあるところがやるという話を伺いました。１つの市がやると刺激されて、他の

市もやるらしいのです。そのような良い意味での波及ということを期待したいと思っています。

＜白木隆光委員＞

愛知県商工会連合会委員、所属は名古屋商工会議所でございますが、白木と申します。

私からは経済団体として、という視点から少し申し上げたいと思います。

愛知県のまち・ひと・しごとという中で、例えば産業界からするとどういった人に増えてほしいか、必要かというところの視点で少し考えますと、私どもも昨年 10 月に提言書を出させていただいておりますが、いわゆるクリエイティブな発想をもとに行動ができる人材をぜひ集めたいという視点がございます。

なぜそういうふうに考えるかというところですけれども、このプランの素案たたき台のところにも次世代産業の振興で、自動車産業の育成振興というところがございますけれども、この中にＥＶ・ＨＶ・ＦＣＶの普及加速と書かれておりますが、実際こういったことが進めば、今、現状の自動車産業、関わっているサプライヤーも含めれば、相当数の企業があるわけですけれども、確実に仕事が減る。今、例えばトヨタさんがここら辺の地域で作っている自動車の数、これを今見えている戦略だけで申し上げれば、今現在作られている台数というのはおそらく、維持できないのではないかなという視点もございます。

そういった中で、自動車産業の中で新たな付加価値を築いていかないと、今まで仕事されて来られた方というのは、これから先、なかなか先が見出せない、そのような状況がございます。付加価値を付けていくためにも、クリエイティブな発想で物事を考え、行動ができる、また、ビジネスをつくり出せる、そういった人材が求められていると思います。

そういった中で、そういった方々が集まるにはどうしたらいいかというところですけれども、そういう方々が来たくなるようなまちづくりといいますか、都市づくりみたいなところが、必要なのではないかなと思います。

それに関しては、いろんな方策があるかと思いますけれども、１つはこの地域にそういう基盤があるモビリティにこだわって魅力を発信していくべきじゃないかと思っておりまして、昨今でいえば、空飛ぶクルマであるとか、ドローンであるとか、そういった次世代のモビリティというものを、しっかりこの地域では支えて育成していくのだという、強い姿勢が必要じゃないかと思います。

それから、そういった方々はいわゆる環境対策の部分については非常に敏感な世代であると思いますので、例えば、新しいエネルギーとしての水素の活用みたいなところですね、他地域に先んじて、積極的に推進していくというような姿勢も大事ではないかと思います。

それから、もう１点最後に、先ほどから色々お話が出ておりますが、子育てという視点も非常に重要じゃないかと思っておりまして、ゆくゆくそういった方々が集まっていただくにあたり、この地域で働き、そして子育てをしていくという、そういう意味では長く留まっていただく、住んでいただくという視点からも、一緒にそういった対策が必要だと思いまして、経済界の視点から申し上げれば、例えば小中高と、今少し触れられておりますが、キャリア教育というものの充実というのを、進めていくべきじゃないかなと思います。

今、私が申し上げたことを、おそらく網羅的にはもう入っていると思うのですけれども、これからＫＰＩの手法を作られていくということだと思いますので、経済界の視点から、そういったものに関しては、非常に尖った魅力として、ＫＰＩを設定していただく中で、取り組んでいただきたいなということでございます。

他都市と比較した中で、ナンバーワンであるとか、或いは差別化をするであるとか、そういった指標をもとに取り組んで、そういうことができれば、１つそういったクリエイティブな人材を集めるきっかけにもしていただけるのではないかなというふうに考えております。

＜大槻秀揮委員＞

中部経済連合会の大槻でございます。

先生方の様々な視点によるご意見大変勉強になります。また、今回、骨子と素案のたたき台、大変分かりやすく整理いただいているのかなと感じたところです。

広域の経済団体という観点から申し上げますと、周辺県に比べて、愛知県はまだかなり恵まれていると思います。人口減少に入った時期がかなり遅いということもあって、これからいろんな手を打たれていくのだろうと思いますが、他県に比べ、アドバンテージを持っています。働く場所がたくさんあり、また、東京には敵わないところもありますが、周辺に比べるとエンターテイメントを含め都市生活の環境も大変充実しており、これらを活かすというのが愛知県の強みではないかと、他県と比較させていただいて感じたところであります。

あと幾つか具体的に感じたところを述べさせていただきたいと思うのですが、素案たたき台４ページの基本的な考え方のところですけれども、これから長期で見ていく中で、脱炭素というキーワードが大事だと思うのですが、基本方針、基本的な考え方のところに見当たらなかったものですから、何らか言及いただくのが良いではないかと思います。なぜかというと、これから新しい産業分野としてその脱炭素に関わる革新的な技術開発、こういったものが愛知県に生まれれば、愛知県のＧＲＰ（域内総生産）も増える、こういうことに繋がるのではな

いかという視点でございます。

それから、21 ページの５番です。こちらも、また脱炭素関係のところになるのですけれども、先ほど申し上げたとおりですね、ここにも、脱炭素に関わる技術開発、ビジネス化、こういったものを入れていただくと、新しい産業の芽というところも、ある種仕事づくりに繋がるのではないかというふうに思った次第です。

それからちょっと細かい部分になるのですが、素案たたき台９ページです。整理の仕方をどうするのがいいのかということですが、１つ目の丸のところに、キャッシュレス、オンラインということで、ウィズ・アフターコロナを見据えたこういう動きから、新しい生活様式のお話になりながら、最後ＤＸ、デジタル化の人材というところで、中身がそちらに軸足が変わっていくような感じになっています。一方、視点１で、デジタル化と書かれていますので、そこの住み分けを整理した方が分かりやすくなるのではないかと思いました。ここはどちらが良いか分からないですけど、少しそう思ったのでお伝えさせていただきたいと思います。

最後ですけれども、素案たたき台 29 ページ、魅力づくりのところにスポーツ大会などを活用した地域振興と、挙げていただいています。これは、とても大事だと思っておりまして、この前の都市対抗野球、全国大会ですけれども、トヨタさんとヤマハさんが東海代表で、決勝が行われました。こういった社会人チーム、それからプロスポーツチーム、こういったものが実は愛知県大変豊富にあると思っています。

これは子どもたちが、スポーツに取り組むとか、そういう環境にも大変繋がると思いますし、応援するということで、地域の魅力にも繋がると思います。これは他県から見ると、大変うらやましい環境だと思いますので、ぜひこういったものを使った地域の振興とか、子どもの教育みたいなところへ入れていただくと愛知県の魅力が一層、広がり伝わるのではないかなと、こんなふうに思いました。

＜伴敬介委員＞

愛知県農業協同組合中央会の伴です。

農業分野の観点から発言させていただきたいと思います。

素案のたたき台、26 ページにある農業者、担い手確保育成について触れさせていただきます。

令和３年、愛知県の農業産出額は 2,922 億円、これは全国８位ということで、愛知県は農業県ということでもございます。過去は、3,000 億円を超えていたのですけども、減少傾向にあるということで、農家の減少、高齢化というのは、従来からの課題だということでございます。

こういった課題に対して、私どもＪＡは、県行政とも連携しながら、新規就農者の確保に取り組んでおります。

県は、令和３年度からステーションを設置して、愛知県での就労希望者に対して、最初の相談窓口の役割を担っていただいており、またＪＡグループとも様々な面で連携いただいており、大変ありがたく思っております。

一方で、県下各ＪＡにおいては県や市町村行政と連携して、就農を希望する方へのいちご塾とか、いちじくスクールとかを開講しており、担い手農家の方などが技術などを教えております。課題として、地域によっては、就農希望者を募集しても、なかなか応募がこないとか、応募があったとしても、志半ばで研修や実習などの次のステップに進まないなど、就農希望者募集の関係で、苦労しているという実態がございます。

また、別の地域では、こういった研修を始めた当初は、県外からの希望者もみえたのですが、最近は、他県との希望者の取り合いがあるというのが実態でございます。

他県の取組状況を見ていると、こういったところにつきましては、居住対策とセットで取り組んでいるという印象を持っております。

こうした中で各ＪＡは、新規就農者の募集に係る情報発信の手法について、様々な試行錯誤をしながら、進めているというところでございます。

この総合戦略におかれましても、基本的な考え方に、例えば東京圏から勧誘する取組の推進等がございますが、この魅力ある愛知の農業について、デジタルという言葉も新たに追加されたということでございますので、デジタルを活用しつつ、情報発信力の強化が必要と考えます。

また、呼び込むためのステップアップが必要と考えておりますので、他県でも取り組まれていますけども、お試しのインターンシップ、こういったものを始めるとかは、県域で一体となった取組が必要と考えます。

さらに、これらの取組につきましては、県だけではなく、やはり市町村の関わりは非常に重要と考えておりますので、各地域での就農支援体制の強化が必要と感じております。

＜寺田昭委員＞

連合愛知の寺田と申します。

私からまずは、基本的な考え方のところですけれども、素案たたき台４ページのところで記載いただいておりますけれども、今後の愛知県の魅力を作っていく中で、中小企業の発展なくして、この地域の発展はないのではないかということであります。ここにも記載がございますが、地域を支える就業の場を確保し、地域の人口維持を図っていくことが重要ですが、企業の 99%は中小事業であり、

働く仲間の７割は中小企業で働く形ということでありますので、しっかりと中小企業の発展を見据えて、基本的な考え方を進めていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

あと、細かいところでいきますと、まず１つ目の結婚・出産・子育て環境づくりですけども、私ども、働く仲間からも、働きながらどうやって子育てをしていくかというところで、一番多く組合員さんも声をいただくのは、やっぱり保育のところです。働いている近くに預けたいのだけど、遠くの保育しか預けるところがなくて、そちらに行って、会社にまた来るみたいな感じということが多々ありますので、保育の部分と、あとは、児童クラブとか幼児期の子育ての環境整備を進めていただいて、魅力ある環境にしていただければというふうに思っております。

あと、続いて素案たたき台 15 ページのところのワーク・ライフ・バランスの推進のところですけれども、先ほども少しお話がありましたけれども、ワーク・ライフ・バランスを推進していく中で、ここの中の施策例のところで、１つ目の「あいちワーク・ライフ・バランス推進協議会」と、下から２つ目、最近始まっております「休み方改革プロジェクト」、この二本立てで進んでいるのですけれども、両方が進んでいて、少し分かりづらい状況になっておりますので、しっかりこの辺を整理しながら、進めていただければなというふうに思っております。

あと、産業のところですけれども、基本目標③「仕事づくり」のところですけども、先ほど申し上げましたとおりですね、地域を魅力あるものにするために、中小企業の発展が必要になってくるかなというふうに思いますので、22 ページの（３）ですね、中小企業、小規模企業の振興のところをしっかりとやっていただきたいですし、産業の関わるすべてのところで、中小企業への支援、人材育成、そういったところを、もっとご支援いただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

あと、基本目標④「魅力づくり」のところですけれども、（１）の地域ブランドの構築と愛知ならではの観光資源の発掘・磨き上げというところの 28 ページ上から３つ目ですね、県内の地域資源を結びつけた周遊観光の促進ということであります。私たちの会員組合にも、宿泊業の皆さんもサービス業の皆さんもおられて、せっかくジブリパークとかができているけれども、愛知県に留まることが少ないという声が結構聞こえておりますので、愛知県内に魅力ある施設、観光スポット、色々とあると思うのでぜひ結びつけていただいて、交通網と一体となって、観光資源の売上を向上させるところに注力いただけるような内容にしていただければと思います。

あと、基本目標⑤「暮らしの安心を支える環境づくり」というところで、高齢社会になってくるので、介護分野が重要と考えております。地域包括ケアシステ

ムの構築とかあるのですけども、単純に相談とか推進とかではなくて、しっかりと市町村も引っ張っていけるような取組にしていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

＜井上純委員＞

中日新聞の井上です。よろしくお願いします。

まず、全体の構成を見ての感想です。今回の新たな総合戦略のたたき台では、基本目標が「①結婚・出産・子育て環境づくり」「②人の流れづくり」「③しごとづくり」「④魅力づくり」…と、こういう順番になっております。第１期、第２期の総合戦略とは順番が変わっています。これまでの基本目標は「①しごとづくり」「②魅力づくり」ときてから「③人の流れづくり」「④結婚・出産・子育環境づくり」…という順番でした。新たな総合戦略では愛知県の人口問題対策の基本的考え方や方向性を打ち出していこう、ということであれば、基本目標の順番の変更は、そうした姿勢を象徴的に示すメッセージになると考えます。

人口減にどう対処していくか。これは熱を出して苦しんでいる人にどう対処するかということと似ているような気がします。熱が出ているから解熱剤というような対症療法を、まずは急いでやらなければいけないわけですが、それだけで問題が解消するわけではありません。なぜ熱が出ているのか。その原因を取り除く治療もしなくてはならない、ということです。今回のたたき台でいえば、基本目標①が対症療法、基本目標②が発熱原因を取り除くための治療に相当すると思います。人の流れをつくる、人の流れを変えていくことが、日本の人口減少を加速させてきた社会構造を変えることに繋がっていくと思います。

そこで重要になってくるのが、例えば素案たたき台の６ページに「基本的な考え方」の１つとして「近隣の自治体間で人口を奪い合うのではなく、各自治体が連携して、東京一極集中の是正に向けた取組を促進」とあります。こうした視点を大事にしていただきたいと思います。あるいは 39 ページに「地域の自主性・主体性の発揮」として分権改革の推進などが挙げられています。これまでも盛り込まれてきた項目ではありますが、更に踏み込んで具体化を考えていただけるよう期待したいところです。

それからもう１つ。人口問題を担当する新聞各社の論説委員がよく使う言葉に「戦略的縮小」というものがあります。これまでの人口増加の局面では、いわゆる人口ボーナスの恩恵に与ることができた。増えていく人口を支えるべく先行投資で社会基盤を拡充すれば、自動的に経済規模も膨らんで十二分にお釣りが返ってくる。ところが人口減少の局面になってくると、人口ボーナスではなくて人口オーナス、つまり負担を自動的に背負うことになる。これまで広げてきた社会の器を維持するだけでも身の丈に合わぬ大きな負担になる、ということで

す。要するに、人口減少に合わせて社会を縮めていく必要があるのではないか。
そこに関して言うと、素案たたき台の 36 ページに「持続可能で活力のあるまちづくり」として「集約型まちづくりの推進」などが挙げられています。いわゆるコンパクトシティなどに関係する事柄と思います。更に人口が減っていく将来を見据えたとき、成長を前提としていたこれまでの都市の姿、社会の器の在り様は、いずれ通用しなくなっていくはずです。それを考えたとき、この「集約型まちづくりの推進」などが非常に重要な課題になっていくだろうと思う次第です。こうした問題への目配りも大いに期待したいところです。

＜事務局＞
事務局からでございます。
本日ご欠席の愛知県商工会連合会様、愛知県市長会様、愛知県町村会様からは、特に意見ありませんという回答をいただいております。

＜内田俊宏委員＞
冒頭の意見に追加ですが、素案のたたき台の 17、18 ページ辺りで、社会増が将来的な自然増に繋がると考えておりますが、東京の大学に行きたいなど、一度東京で働いてみたいという若者を思いとどまらせることは難しいと思いますので、一旦、東京や首都圏に移住した若者のＵターンやＪターンを重視する必要があります。近年の人材不足の中で、雇用が流動化している若い世代の中途採用や、本県での起業が重要になってくると思います。
その点で、18 ページの上段に、首都圏の求職者に向けた県内企業の求人情報を掲載するマッチングサイトの運営があり、ＵＩＪターン支援センターなどの連携が施策として重視されていますが、最近の実態としては、ビズリーチのような民間の転職サービス会社がかなりのシェアを占めていますので、官民の連携は強化すべきだと思います。なぜなら、東京や首都圏在住者の潜在的なＵＩＪターン需要はかなり多いと思いますので、本県出身者だけでなく、この地域の出身者や東海エリアの大学を卒業した人とか、本県での勤務経験者といった層を中心にターゲティングしていく必要があると思います。
それから、上の 17 ページの愛知の住みやすさという記載があるのですけど、18 ページのあいちＵＩＪターン支援センターのホームページを閲覧すると、トップに名古屋城が出ていて「産業力の日本一が愛知」というキャッチコピーが出ているのですが、デザイン性や文字フォントなども含めて、若い人に全く受けないテイストなのかなと思います。もう少し名古屋の古いイメージを刷新するようなアーバンライフ的な大都市の魅力をアピールすべきだと思います。例えば、久屋大通パークやテレビ塔や夜景であったり、ジブリパークであったり、若者や

女性に対して洗練されたイメージを定着させる必要があります。住みやすさはアピールポイントではありますが、実際に住んでもらえば分かりますので、まずは入口としての愛知・名古屋に魅力を感じてもらうことを前面に押し出す必要があるのかなと思います。

関連して、（４）の留学生の受入れ拡大ですが、国の方向性として、今の専門学校の留学生、就職先の分野を秋にも大幅に拡大するということですが、この辺りでは首都圏の専門学校との連携強化によって、愛知に来てもらうといった取組が効果的なのかなと思います。以上です。

＜白木隆光委員＞

繰返しになってしまいますが、真意が伝わっているかどうかということもあったので、補足をさせていただきたいと思います。

キャリア教育の充実をという話をさせていただきましたけれど、その他もう１つの意図といいますか、見解としてはそういうのがもちろん必要だとかあるのですけれども、子育てを積極的に愛知県でしたくなるということで、子育てを支援するというよりは、どうせ子育てするなら愛知県でといったようなぐらいの意気込みを打ち出していただけると良いのではないかと思います。こういったキャリア教育が充実しているエリア、愛知県しかないというぐらいですね、目標にやっていただければいいのではないかなという気がしております。

それから次世代自動車のところで、少しどうかなと思ったのが、ＥＶ・ＰＨＶ・ＦＣＶではあるのですけど、トヨタさんはまだ水素エンジンって諦めてないと思います。その辺りは触れなくていいのかと、少し懸念があるなと思います。

次のページの環境・新エネルギー産業の育成というところで、水素の活用というところ、そういったものを触れていただけるのも１つ手かなと思いました。

＜戸田敏行委員＞

ちょっと補足ですが、先週１つ講演会があって、フォルクスワーゲンの日本本社は豊橋にありますが、なぜ世界企業の日本本社が地方都市に来たのだというものです。そこで当時、日本本社が東京から豊橋に移ってくる間に、女性はほぼ全員やめました。そして、男性はほとんど全員が豊橋に来ました。特に女性には仕事と地域環境の関係というのは強く、女性をターゲットにするのであれば、場の力が相当強いということです。かなり細やかな、フィットするような選択肢を出さないと、一律にという対応はなかなか難しい。

それで東京から移ってきて、社員の人たちのライフスタイルが変わりました。これはどういうことかというと、仕事が終わって家に帰るのですね。家族の時間が極めて増えた。これは若い学生たちにとっては極めていい印象だったという

ことです。
　結局は、今、若者というのを、数字で見ていますけれども。やっぱり一人一人の人生なので、若者がここに住むことが幸せでなければ、政策としてあまり意味がないということだと思うのですね。ここに来るということが、愛知に住むことが幸せであるというふうに、一人一人にとって、そういうメッセージがこの計画から出ることが必要だと思います。そのためには、基本的な考え方で書いていただいた、２つ目のゆとりある生活、暮らしが、東京に対するアドバンテージとして書かれているのですけども、ゆとりある生活なのか、或いは充実した生活なのか。この県の若者に対して、どういう人生を提供しようとしているのかということを、少し織り込んでいただくと、より届くことがあるのだという感じがしました。

＜白上昌子委員＞
　この場で言おうかとても迷っていたことがありまして、実は先ほど大槻委員が、素案たたき台の 29 ページにある、スポーツ大会を活用した地域振興は、子どもたちのところに入れればいいのではないかとご提案がありましたが、私もそのような視点はあるなと思っています。実は愛知県の小中学生を対象とした体力テストの結果は、全国と比べて８年連続ほぼ最下位の状態です。持久力を測る項目で特に低い状態です。
　ある自治体のスポーツセンターの改修工事に関わらせて頂いた際、なぜこういう状態になっているのかということで、その自治体の市民を対象にアンケート調査とヒアリング調査をさせて頂いたことがありました。
　子育て世代の保護者の方とか、地域スポーツクラブの方、現役の子どもたちにも直接話をお聞きしました。実は子ども達はみんなもっと外で思いっきり遊びたい、ボール遊びをしたいと思っていることが分かりました。調査した地域はどんどん子どもが増えている地域で、名古屋に比べて土地はいっぱいありますが、思いっきり遊べる場所がない。公園が少ない。なので、子どもたちは仕方がなく家に帰ってオンラインゲームをしているということが分かってきました。
　つまり、どういうことをお伝えしたいかといいますと、昔もボール遊びは禁止だったけれども、そこには子どもたちを健やかに育てていこうという、そういう温かなまなざしで見つめる大人たちがいた。そういう許容度というか寛容度というか、そういったものの中で子ども達は遊びを通して育まれてきました。そういうものが街からなくなると、どうなっていくのか。ここは禁止していますよと直接子ども達に言うのならまだしも、警察に通報されて、そして警察が注意にやってくる。行政にクレームが来て、そして注意を役所の人から受ける。そうなるともう外遊びはしないとなっていく。こういう環境の中で子どもたちが今置か

れているのだということです。もちろん体力テストの結果というのは、いろんな複合的な要因がありますので、これだけがどうだという話ではないですけれども、地域社会全体が、どう子どもを育てていくか、そういった視点に立ったとき、現状はどうなのか。小学生、中学生の体力テストの結果だけではなくて、そこに至るまでのもっと０歳児から、歩き始めた段階から始まっているのではないか。子育てをされている方々が周りに気を遣い怯えながら生活をしています。騒いだらどうしよう、足音が隣に響くのではないのか、そういう状態の中で子ども達が育ってきているということです。

やっぱり子どもは元気でいいよねって思ってくれるような、そういう大人たちをどう増やしていくか。そういった文化醸成がとても重要なことなのではないかなと感じました。この素案のたたき台のところの部分の郷土愛を身に着けるとか、確かに大事ですけれども、その前段として、少子高齢化の時代の中で、相互理解を図るための多世代との接点をどう用意していくかというところはとても重要で、こういったスポーツ大会をうまく活かしながら、色んな接点を作っていくことも重要だと感じました。

＜松田茂樹委員＞

私の方から若者の転出を抑制することに関する話、また大学等の話が、素案たたき台でありますので、それに関わる話をしたいと思います。私の立場から申し上げると、利益相反となるような面もありますので、そこを割り引いていただければと思います。

今日の骨子や素案たたき台に直接関係ないかもしれないのですけども、私の知り合いで教育を研究している教員から言われたのですけれども、愛知県の県立高校では、公立大学や国立大学の入学者数を、何かこう至上主義のように捉えて、それの実績を上げようとしている、ちょっと過度な傾向があるのではないかということがあります。

国立、公立大学、私は大事だと思います。ただ、愛知県内に国公立大学は少ないので、実績を上げようとするとどうするかというと、全国各地の、国立や公立を、本人のご希望とは関係なく、受けさせているところがあるのではないかという話でした。

国立、公立、大事ですが、ご本人の選択をまずは重視して、お子様の希望する大学を受けるようにしていただきたいというのが大事ではないかと思います。

直接的なデータがないのですけど。地方のどこでもいいから国立や公立を受けているようです。そうすると、多分そこにいってしまっている学生がいると思うのですけど、ご本人の希望とは関係なく。これはあまり良くない慣行かなと思います。教育委員会のマターですので、ちょっとこちらからは言えないかもしれ

ませんけども、かなりこれは社会移動にも関係しますので、ちょっと気になる次第ですので申し上げました。

＜後藤澄江座長＞

本日は本当にいろんなご意見、ご提案をいただいたと思います。

たくさんのご意見をいただいておりますので、なかなか整理ができないところではありますが、私の方からも、皆様の意見を含めまして、大きく３点に分けて、発言させていただきたいと思います。

１点目は、今回は人口問題対策プランという側面がとても大事だということであります。本会議は 2015 年以来開催されておりますが、愛知県は人口が停滞しても、すぐまた上昇するとこれまで思ってきました。しかし、今回は減少傾向が何年か続いているということであります。今回の人口問題対策プランは、とても大事ということになるかと思います。

人口を少しでも増やしたり、或いは維持したりというような歯止めという部分も大事だし、減少局面にあるので、それを受け入れつつ、その中で人々が安心に暮らすにはどうしていったらいいかと、その２つを合わせて、人口問題対策プランを作っていくということで、そこにたくさんのご意見が本日も寄せられたかと思います。

従来ですと出生数を増やしましょう、だから、結婚したくなるような出産したくなるようなことをしましょうということで、それも大切だとは思うのですけれども、先ほど松田委員のご発言でありましたように、単なるイベントで結婚しましょう、出産しましょうと、ほとんど効果がないので、やるならば、徹底的に包括的な支援をして、結婚・出産した後の暮らしのあり方を提案できるようなことをしていかないとなかなか成果は出てこないのではないかという指摘があったと思います。

また、結婚・出産をめぐっては、価値観が非常に多様化しています。人々の間のその価値観の多様性をきちっと理解した上で、相談支援に乗らないと、かえって押し付けのようなことになってしまいますので、その辺りが重要だと、特に女性の意識というものを十分に理解していただくことが大事だという、お話もありました。

さらに、人口の流出・流入ということにおいては、仕事とライフスタイルの両方での魅力づくりが大事だということであります。

仕事面では、この地域は様々な仕事の機会があるということです。白木委員のご発言の尖った魅力ということですが、仕事の場として、この愛知県が日本全体の中で、どういう位置付けにあるのか、或いは、この圏域の中でどういう位置付けにあるのか、その中で、尖った魅力として打ち出せるようなものをしっかりと

押さえつつ、中小企業の雇用をきっちり維持していくことも大事だというようなお話があったかと思います。

そして、外国人人口ということを考えていきますと、外国人の労働者の受入れが大事になっています。外国人の方々を受け入れるということは、その人たちの暮らしも同時に準備しなければいけない。特に外国人の子どもの教育問題は大きな課題となっております。プレスクールというか、そういう段階から支援することがとても大事と思います。先駆的にそういうことに取り組まれている市町村が県内にございます。数年前と比べ、そういう意識の首長さんたちも現れていらっしゃると思います。

保育サービスや子育て支援の充実は大事ですけど、最終的には、子どもを中心に、この地域で育った子どもが、幸せ、ウェルビーイングというか、幸せになるための子育て支援という視点が大事であって、そのために親の子育てもきちっと支援するんだというような、そういう視点が大事であります。この地域で育ったことが、その子どもたちにとって、地域への愛着になったら、一度外に出てもまた戻ってくるというような意識に繋がると思います。

日本全体が人口の減少傾向にある中で、愛知県の人口を増やそうということは、周辺との奪い合いみたいな側面もあり、限界もあります。人口減少下にあっても、そこで暮らす人々は、高齢者も含めて快適な暮らしになるため、デジタル活用等いろんな工夫がなされていくことが期待されます。既存の価値観とか、既存の仕組みだけでは人口の減少傾向の中でのライフスタイルに合わないところがあります。そういう観点から改めて見ていくということも、とても大事かと思います。

愛知県の子育ては、県財政安定のおかげで、金銭面でもサービス面でも他の都道府県と比較しても良い水準にはあります。ただ、子育てや子ども中心の子育てにおいて、尖った魅力があるかというと、その辺りはまだ不足しているのかなというところがあると思います。ですから、この地域で子どもとして育ちたいとか、この地域で子育てをしたいというところまでいくような魅力が必要です。子育ち・子育ての魅力づくりはやってくださっているかもしれませんけれど、行政と民間が連携して、そういう動きが愛知県で出ているというところが、あんまり発信されてないと思います。

例えば、コロナ禍で、自宅では共働き夫婦が一緒にオンラインワークしにくいので、片方はどこか近くの別のスペースでオンラインワークができる場所があればとか、働く１人親がオンラインで仕事しながら近くで子どもを見てもらえるスペースがあったらというニーズが浮上しました。東京方面だと結構、行政や民間が対応しました。例えば千葉県松戸市は、子育て預かりサービス付コワーキングスペースを公的に整備しました。愛知県ではそういう発想が育ってないか

ないところがあったり、一例ですけれど。子どもがこの地域で育ちたいという気持ちに結びつくキャリア教育の魅力とか、子育てしたいというような魅力、そういうのがあるといいのかなと思います。

１点目の話が長くなりましたが、２点目は、新たな「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、市町村が主体になって取り組んでいただくものになるといいということです。

市町村の実情、地理的な条件とかそういうものが違います。今回、６ブロックに分け、そこで丁寧に市町村のご意見や課題やニーズということも拾っていただいて、総合戦略を作っていただくということになっておりますので、その点はとても良いと思っております。

戸田委員からお話がありましたように、同じデジタルの導入といっても過疎地域では、基盤の導入が生命線とのこと、そのとおりと思います。基盤ができているところでは、どうやってその市町村がそれによって地域の魅力を作っていくかということが大事になり、１つの市町村が取り組まれると、他もある程度そういう刺激を受けて、みんなでやっていくみたいなところがあります。この戦略においてもそういう意味でのネットワークづくりですかね、いろんな同じような立場である市町村のネットワークづくりを積極的にやっていただくことで、モデル的な取組をしているところに積極的に発表していただき、それをみんなが共有していくような、そういうプラットフォームを作ったり、何か会議をされたりということも丁寧にやっていただくといいと思いました。

また寺田委員からお話がありました、地域包括ケアとか重層的支援体制づくりは非常に大事になっております。口で言うのは容易ですけど、本当にそれを構築していくには、かなり難しいところでありますので、この辺りも市町村の実情に配慮しながら、一緒になって進めていただくテーマとしては、とても大切なのではないかと思っているところであります。

３点目は、前回の会議でもご議論いただいたことですが、デジタルとグリーンということであります。

デジタルは今回も書いていただいて、言葉の使い方をはじめ、今のデジタルの方向性に沿って、もう一度きちっと全体的にバランスが取れているか、見直してほしいというようなお話もあったかと思います。また、グリーンは、脱炭素とか都市の緑の確保とか、そういうことがこれからの課題としてあって、そこには、民間の手法を導入しながら、推進していくということが大事になっています。人材育成というのも、大事かなと思っていて、もちろん書いてはいただいているのですけど、改めてご指摘もありましたので、その辺りをもう一度見ていただくといいと思いました。

いずれにしましても、ここに入ったことをどうやって実現していくかという

のがとても大事かなと思います。県が主導してやっていただくってことは不可欠ですけれども、実現していくには、県と市町村の連携や、それから民間の力を十分生かしていくということが大切で、先ほど、ＵＩＪターンとかそういうのは、内田委員がおっしゃってくださったようなところもやはり民間の力をきちっと使って、また大学との連携というのもあるというお話がありました。市町村内においては、先ほどのスポーツの話がありましたけれど、子どもたちの体力とかそういう細かいところにおいては、市町村の地域社会、地域コミュニティとのきちっとした連携なしには、最終的には人のライフスタイルの満足度というのは実現できないと思いますので、その辺りもう少し意識していただくと良いと思います。

十分なまとめになっておりませんけれど、皆様にお話いただきながら、３点ほど考えながら、お話伺っておりました。

本日は本当に活発なご議論をいただきましてありがとうございました。

事務局の方におかれましては本日の意見を踏まえ、引き続き総合戦略の策定作業にしっかりと取り組んでいただくことをお願いいたします。

＜局長挨拶＞

閉会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、新たな「愛知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の骨子等につきまして、それぞれのお立場から貴重なご意見・ご助言をいただきまして、ありがとうございました。

今後は、本日いただきました委員の皆様方の大変有意義なご意見を踏まえ、事務局において、新たな総合戦略の素案を作成してまいります。

次回の推進会議では、素案をご提示し、委員の皆様方からご意見を賜り、新たな総合戦略の策定にしっかりと活かしてまいりたいと考えておりますので、引き続き、ご意見・ご助言をいただきますようお願い申し上げます。

本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。